



あすなるだより

2014年6月20日

発行 三重県立^{こども}小児心療センタ あすなる学園 広報担当
〒514 0818 三重県津市城山1 12 3 TEL.059 234 8700 FAX. 059 234 9361
M A I L : asunaro@pref.mie.jp U R L :http://www.pref.mie.lg.jp/ASUNARO/HP/

ご挨拶

この度、厚生労働省は障害者雇用の促進等に関する法律の一部改正を、平成28年4月1日を施行期日として行う事を通知しました。

その目的は、「雇用の分野における障害者に対する差別の禁止及び障害者が職場で働くに当たっての支障を改善するための措置（合理的配慮の提供義務）を定めるとともに、障害者の雇用に関する状況を鑑み、精神障害者を法的雇用率の算定基礎に加える等の措置を講ずる。」とし、内容は、①障害を理由とする差別的取扱いの禁止、②障害者が職場で働くに当たっての支障を改善するための措置の事業主への義務付け、③雇用する障害者からの苦情を自主的に解決することを努力義務化、としております。

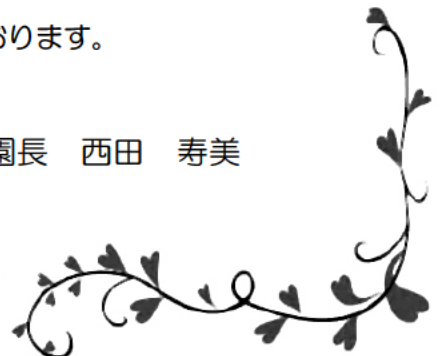
「障害のある人が障害のない人と同様に、その能力と適正に応じた雇用の場に就き、地域で自立した生活を送る事ができるような社会の実現をめざす」と明言されてもいます。

そういう理念が“絵に描いたもち”や弱者への搾取にならないように、関係機関は目を光らせる必要があります。

7月31日（木）開催のあすなる学園恒例のシンポジウムは「発達障がいの社会的自立について」と題し、就労支援の課題も検討しようと考えております。

皆様のご参加をお待ちしております。

園長 西田 寿美



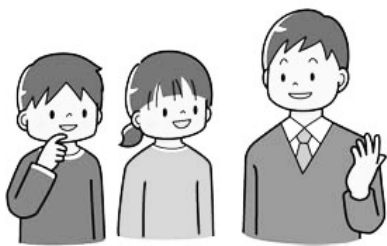
第52回 日本児童青年精神医学会での症例報告
～実践症例を通して学んだこと～

デイケア・療育 生駒 英樹

今回、第52回日本児童青年精神医学会において、二年間担当した入院児の「不登校・場面緘黙を主訴とする中学生男児の入院生活における変化」について報告をさせていただきました。

今までの臨床の中で緘黙症状を呈することもとの関わりや治療経験はほとんどない状態で試行錯誤する日々であり、その中で十数年前に精神科臨床実習で2か月間関わった、長期ひきこもりの男性の事を思い出しました。

彼は小学校でいじめにあい、3年生から以後20年間ほぼ家にひきこもっていました。その当時担当になった自分は、彼に対してどのように関わっていいのかわからず、指導者のアドバイスは「沈黙を聴く」とことと「興味ある無関心」だけでした。実習中の自分は、話や活動を一緒にしなくてはいけないと焦っていましたが、一方的な提案は上手くいくはずもなく、途方にくれる毎日。言葉にならない言葉をただ黙って聴くこと。その沈黙には意味があること。こころに干渉せずに待つこと。あなたのことが気になる、放っておけないと思うこと。でも程よい距離を保って待つこと。そんな心持ちで対応をすると、徐々に男性は個別の関わりから小集団への参加が可能となりました。



本ケースにおいても同様に、初めのうちはアセスメント等で言葉や行動面の情報を得て、その後治療としてなんとか行動面を変化させたいと思いましたが、やはりうまくいきません。

基本的に立ち戻り、受容的で負担や不安の少ない対応を中心に支持的な関わりを行うことで、本ケースも徐々に人の中に入ることや集団参加が可能となり、不登校状態からも脱却することができました。

それでも入院治療においては、時に行くべき道を見失うことがありました。でも決まった道はなく、行き先さえ見据えていればいいのではないのでしょうか。治療の目的地に向かうドライブは、助手席の分校教諭(同伴者)と運転を交代しながら、「最近はどうな感じなん?」と会うたびに発破をかけてくれたケースマネージャー(アクセル)、「ぼちぼちで大丈夫」と寛大に見守り、焦りをフォローしてくれた生活指導員の責任者(ブレーキ)、「一緒に考えて悩もっか」と気持ちに余裕とパワーをくれた臨床心理士(ガソリンスタンド)、治療が進まずになんとかしようとか力が入っている時には「なんとかしようじゃなくて、なんとかなる」と気分を和ませてくれた看護師(道の駅?)、そしていつも気軽に相談でき、こまめに状況確認や診察をしてくれた信頼できる主治医(ナビゲーション)との多職種の協力の下に、やっと目的地にたどり着いたという感じでした。

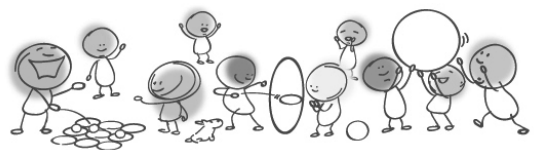
不登校や緘黙・緘動*症状の問題を抱える多くの子どもたちは、がんばりたくてもがんばれず、自分自身ではどうしようもなく困っています。そんな彼らにまた「がんばれ」と言うよりも、「がんばったね、がんばっているね、一緒にがんばろうね」と慰労し、誉め、勇気づけることが大切だと感じました。

* 言語機能や運動機能に異常は見られないが、心理的な要因などによって話すこと、行動することがスムーズにできない状態。

障がいや病気の有無に関わらず、人は人と交わり、人を通じてこそ、こころをワクワクさせ、周りの人たちと温かい気持ちでやり取りができる。すると、こころが温もり、気持ちが開き、体が軽くなるような気がします。「こころが動けば身体が動く」そして「身体が動けば意思が動く」そしたら生活や暮らしも変わっていく。

忙しい日々の中でこどもの行動ばかりに目がいき、こころの声を聴くことを忘れがちになることがあります。こころのうつろいをキャッチし、困り

感をみる（観て、診て、看て）ことができるような支援を心がけたいと改めて思いました。昔、ある親御さんから「〇〇さん（筆者）が担当することもはたくさんいるけど、この子の担当は〇〇さんしかいない、今はこの子のことをしっかりと見てください。」と言われました。まずは、今関われる目の前の一人一人のこどもにできることを丁寧に行いたいと思います。



新任医師のご紹介

小崎 有理 医師



こんにちは。平成26年4月より勤務しております、小崎有理と申します。愛知県出身ですが、地元は割と田畑が多いところでのんびりと育ちました。趣味は冬の寒さ厳しい鳥取大学時代に始めた、温泉に入ることです。三重県の温泉はまだ知らないところが多いので、これからいろいろ探していきたいと思っています。

平成21年鳥取大学を卒業後、長野県で研修医をし、その後名古屋市立大学病院で精神科に勤務していました。思春期から老年期まで幅広い年齢層のさまざまな生きづらさを抱えている方たちにお会いする中で、発達の凸凹を持つ方たちへの関わり方や支援に関心を持つようになりました。あすなろ学園には昨年度に1月間お世話になり、子どもたちの現在の問題だけでなく10年後、20年後を考えながら関わっていくスタッフさんたちの姿勢に感動し、是非こちらでもう一度お世話になりたいと思いました。この度こちらで働けるようになったことを大変嬉しく思っています。日々精進し、微力ながら自分のできることを精一杯取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



三重県立小児心療センターあすなろ学園

第21回 あすなろ学園シンポジウムのお知らせ

「発達障がいの社会的自立について
～幼児期からの途切れない支援の実現を目指して～」

日 時：平成26年7月31日（木）

13時00分～16時00分（開場12時30分）

場 所：三重県総合文化センター 文化会館 中ホール

基調講演：「発達障がいの職場不適應の実態と課題について」

永田 昌子 先生（産業医科大学 産業医実務研修センター 助教）

シンポジウム：「あすなろ学園における途切れない支援について」

シンポジスト：中村 みゆき 保育士

山下 亨 生活指導員

中西 大介 医師

司会：西田 寿美 園長（医師）

三重県立小児心療センターあすなろ学園職員



今年度は「発達障がいの職場不適應の実態と課題」について産業医科大学 産業医実務研修センターの永田昌子先生に基調講演していただきます。

その後、「あすなろ学園における途切れない支援」について、あすなろ学園職員を交えたシンポジウムを開催させていただき、「幼児期からの途切れない支援の実現」に児童精神科医療は何ができるのか、また教育・医療・福祉の分野の方々、保護者の方々とどのように協働していけるのか、みなさまと考え、学ぶ機会としたいと考えています。

多くの方々のご参加をお待ちしております。

外来診療のご案内

（平成26年6月1日現在）

*診察は完全予約制です。

都合により変更になる場合もあります。

●予約電話番号 **059-234-9700**

（予約電話
受付時間
（月～金） 9:00～12:00
13:00～16:30

曜日	月	火	水	木	金
1 診	中島	西田	西田	大橋	大槻
2 診	柿元	中西	石田	中西	笹岡
3 診			大槻		
4 診	笹岡	中島	中野	柿元	中野